

## 倫理

## 第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

## 1 前文

令和4年度（第2回）大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）の倫理の問題作成の方針は以下のとおりである。

人間としての在り方生き方に関わる倫理的諸課題について多面的・多角的に察する過程を重視する。文章や資料を読み解きながら、先哲の基本的な考え方等を手掛かりとして考察する力を求める。問題の作成に当たっては、倫理的諸課題について、倫理的な見方や考えを働かせて、思考したり、批判的に吟味したりする問題や、原典資料等、多様な資料を手掛かりとして様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。

ここでは、本年度の問題について報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点から分析し、上記の方針に基づいたものとなっているかどうかについて評価したい。

## 2 内容・範囲

## 第1問 「友達」について（源流思想）

高校生の会話という場面から、友達との関係における悩みに関連して、先哲の様々な思想を問う問題設定である。友愛や賢明な友について、先哲の原典の読み取り、日常生活につなげて考察する学習過程が重視されている。原典読解が受験者にとって取り組みやすい内容であり、全体としてはやや平易な大問である。

問1 愛について考察した思想家について問われている。基本的知識から解答できる。

問2 古典や聖典の内容についての設問である。幅広く問われているが標準的な難易度の設問である。

問3 先哲の文章から読み取れる内容と知識を組み合わせる設問であり、アウグスティヌスの正確な理解が求められている。

問4 先哲の文章から読み取れる内容と知識を組み合わせる設問であり、仏教の理解が求められている。

問5 様々な先哲における知についての考え方が問われている。④のエピクロスは正文であるが、原子論まで正確に学習できておらず、細かい知識である。

問6 様々な先哲における人間関係についての考え方が問われている標準的な難易度の設問である。「逍遙遊」の境地や「八苦」の内容を十分に理解していない受験者がいたものと思われる。

問7 読み取れる内容の理解を確かめる選択肢となっているが、「友愛」の説明としてなじみがある受験者もいたものと思われるため平易である。受験者にとって初見の資料に限る必要はないが、文章の量や複雑性を増すのではなく、文章から導き出される内容を活用し、日常生活における具体例と組み合わせるなどの工夫を期待する。

問8 原典の一部を資料として読み取る設問。資料にメッセージ性があるが、時間さえあれば、答えを導くのは容易であり、知識を問うか、生徒が先哲の思想を活用して発言するような工夫があるとよい。

## 第2問 「役に立つ学び」について（日本思想）

生徒どうしや先生との会話などを通して「学び」について考え、自分自身のためだけにとどまらず、他者との関わりにおける学びの重要性も伝えている。また、Ⅱで用いられた生徒同士の「紙上での対話」は高校の授業改善のひとつのあり方を示唆するなど、メッセージ性のある大問である。各時代の出題バランスは適切であったが、全体的にやや難しい。

問1 賀茂真淵の思想についての理解を問う標準的な難易度の設問である。

問2 日本における神々への信仰と仏教との関係について問う標準的な難易度の設問である。

問3 山崎闇斎についての知識と資料の読み取りを組み合わせさせた設問である。知識の部分と読み取りの部分の内容が全ての選択肢で異なっていたため、受験者は資料をより丁寧に読むことが求められたのではないかと考えられる。

問4 空海についての知識を問う標準的な難易度の設問である。

問5 イの井上哲次郎は、教科書本文での扱いも少なく、その思想について学習する機会が少ないため戸惑った受験者も多いだろう。やや難しい設問である。

問6 高野長英についての知識を問う標準的な難易度の設問である。

問7 誤っている選択肢の人物が分かっていたら正答は導けるが、叡尊は教科書本文での扱いが少ないため、その事績について踏み込んで問う設問は、判断に迷った受験者も多かったのではないかと考えられる。

問8 空欄 a, b ともに資料を丁寧に読み取ることができれば正解を導ける平易な問題であるため、倫理的概念を組合せるなど工夫を期待したい。

### 第3問 人間の賢さについて（西洋近現代思想）

人間の賢さに関連した資料や会話文を元に、西洋近現代思想に関する知識だけでなく、思考力を問う問題が含まれている。授業で先生が示した文章と原典資料二つ、先生と高校生Dの会話文、Dが作成したレポートと、読む分量は多いが、一つの設問で複数の資料や会話文を同時に参照する必要はなく、受験者は比較的取り組みやすかったと考えられる。全体的には標準的な難易度の大きな問題である。

問1 機械論的自然観に関連する人物についての理解を問う。誤答の選択肢も部分的にそれぞれの人物の思想を示す言葉が入っているため、やや難易度の高い問題となっている。

問2 モンテーニュの思想についての理解と、『エッセー』から抜き出した文章の読解力を問う。やや平易な問題ではあるが、知識と読解力の両方を必要とする良問である。

問3 社会契約説を唱えた人物の思想についての基本的な理解を問う標準的な難易度の問題。

問4 ニーチェとベルクソンの思想についての理解を問うやや難易度の高い問題。単にキーワードを暗記するだけでは対応できず、ニーチェの「力への意志」や「運命愛」などの基本的な用語の正確な理解やベルクソンの思想についての基本的な理解が求められる。

問5 資料の読解力が問われる平易な問題。シェラーは受験者にとって馴染みのない人物ではあるが、原典資料で使用している部分はそれほど長くなく、内容も理解しやすい。

問6 カントの思想についての標準的な難易度の問題。生徒Dの作成したレポートの空欄補充で a, b, c すべてについて正解する必要があるが、カントの理性についての思想に関わる用語を正確に理解していれば正解を導くことができる。

問7 キルケゴールとハイデガーの思想についての基本的な理解を問う標準的な難易度の問題。実存について考えた思想家の思想は受験者にとって易しいものではないため、正誤問題についても、例えば、三つ以上の文章の正誤の組み合わせとして選択肢を増やすのではなく、このようにアとイ二つの文章についての正誤の組み合わせを四つの選択肢から判断するようなものが適切だと考えられる。

問8 会話文の趣旨についての読解力を問う比較的平易な問題。人間の思考と自然との関係について、ゲーテと、ハイデガーの思想をつなげて考えた会話という設定は、受験者にとって新鮮なものであると考えられる。倫理学習によって得られる生徒の姿を意識した場面設定である。

#### 第4問 差別や偏見について（現代の諸課題と青年期）

差別や偏見について考察する高校生の会話文を読んで解答する構成で、本試験の第4問と比べると設問の形式は「ひねり」が少なくシンプルな印象を受ける。単なる資料読み取り問題ではなく、知識のみで正答できるわけでもない形式、すなわち倫理の知識を前提にして、同時に論理的思考力を試す設問が増えていくことが現場の期待であるが、取り上げられた思想家や題材は授業でも探究の切り口に使える素材が多い。とくに若い世代に関心をもって考えさせたい現実社会の諸課題を取り上げた出題者のねらいが推察できる。

問1 性に関する差別からフェミニズムとボーヴォワールが取り上げられており、もう一段深い考察を求める形式上の工夫があるとなおよい。

問2 オルポートは昨年の本試験第4問にも登場したが、教科書では扱いが大きくなく、今回は引用文を読んで内容理解を試す問題となった。読解力で解答できる感もあり、倫理の知識や考察を求める工夫があるとよい。

問3 ステレオタイプをテーマに実験データを読み取る設問。データの構造を理解すれば正答は難しくないが、ステレオタイプの意味を理解していないと趣旨がつかみづらい感があり、「倫理」で学んだ用語を踏まえて判断させる点で良問と言える。

問4 自由をめぐる思想家としてアーレントとロールズを取り上げた設問。アーレントやロールズ、また権威主義的性格に関する大まかな理解があれば、消去法で正答を導ける。

問5 異なる文化や民族との関わり方についての設問。教科書レベルの学習で判断できるが、岡倉天心について触れることが少なかった受験者は迷いもあっただろう。

問6 子どもについて、2つの考察がそれぞれ誰のものであるかを組合せる設問。「第二の誕生」がルソーだということは平易に判別できるが、アリエスとハヴィガーストは区別が難しい。細部の知識を要求しているような誤解にならないとよい。今後も、たくさんの思想家の知識の詰め込みになるのは避けたいものである。

問7 生殖技術について、2つの記述の正誤を組合せる設問。イのクローン人間の作成が禁止というのは分かりやすいが、アのiPS細胞については、それがES細胞と異なり、倫理的問題をクリアすると言われていたことをおさえる必要があり、丁寧な理解を求めている。

問8 ヌスバウムの著作を読んで内容理解を試す設問。単なる読解の問題としてではなく、身近なジェンダー問題や性別役割分業などに置き換えて選択肢が設定され、高校生目線で解釈する形式は、倫理の学びが現実問題と背中合わせであることの象徴として意義深い。

問9 冒頭の会話文を踏まえ、差別や偏見の問題を総括するまとめのような設問であり、大問全体を締めくくるのにふさわしい役割を果たしている。解答を通してテーマ全体を考えさせ、選択肢それぞれが授業でも取り上げやすい内容となっておりメッセージ性が強い。

### 3 分量・程度

試験問題の分量は、大問4、総設問数33であった。各大問及び各設問における原典資料等が豊富にあり、会話やその展開には、メッセージ性があった。今後は、更に方針に沿って、諸課題について、倫理的な見方や考え方を働かせて、思考したり、批判的に吟味したりする設問の増加を期待したい。全体としては、適切な分量であった。

問題の難易度は、全体として、標準的な難易度であった。出題内容や出題の分野のバランスの面でも適切なものであったが、資料の読解のみならず倫理的な知識を踏まえた上での資料の考察等、知識をより活用させる形での設問とする工夫及び選択肢の工夫により、適切な難易度にしていただきたい。なお、その際、教科書等での頻出度の低いような知識を問うことで難易度を上げることがないように留意していただきたい。教科書等での頻出度の低い先哲の思想内容について、細かな知識を求めるのではなく、頻出度の低い先哲の思想を出題する際には、資料を踏まえる等の工夫を求めたい。思想の細部に立ち入るよりも、教科書等で学習した基本的な知識を踏まえて、考察する設問数の増加を期待したい。

#### 4 表 現・形 式

各設問の文章表現・用語については、受験者にとっておおむね適切であった。先哲などの資料を読み取り、会話文中の空所を補充する出題形式は、知識や読解力を問うことのできる設問であり工夫がみられるが、類似した形式の出題がやや目立つ。資料活用之力を測る設問として、グラフ問題が1問出題されたが、メッセージ性があり、設問に取り組むことで学びのある設問であった。図や写真を活用した設問、会話文の中で絵の解説を取り入れたものはみられなかった。設問に関連していることが前提となるが、今後、更に図や写真等を活用し、考察させる設問の工夫を期待したい。

#### 5 ま と め（総括的な評価）

追試験は、本試験に比べると知識の有無や、資料の読み取りのみによって正誤を判断させるような設問がやや多かった。本試験と同様に、知識の理解の質を問う設問や、知識を活用し、思考力・判断力・表現力等を用いて解くような設問を増加させるなど、共通テストの問題作成方針に基づいた作問の更なる工夫を期待したい。

共通テスト2年目となり、知識や資料に基づく思考・判断に重点を置いた作問の傾向がより鮮明となっている。高等学校の授業改善もより一層の工夫が求められることとなった。